

厚生委員会速記録第十三号 平成二十五年十一月二十一日（木曜日）

<http://www.gikai.metro.tokyo.jp/record/kousei/d3050263.html>

○田中健都議会議員 最後の質問は、生活習慣病対策であります。都民の死因を見ますと、第一位のがんを筆頭に、第二位が心疾患、第三位が脳血管疾患となっており、生活習慣病が都民の命、健康を守るための最優先の課題であることはいうまでもありません。特に、食生活や運動は健康づくりの基本であると考えますが、これについて、ここでも大きく宣伝をしておりますが、具体的な取り組みについて伺います。また、関連して、今年度、あわせて行われております食生活改善普及運動についても伺います。

○高橋保健政策部長 都は、健康推進プラン21におきまして、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を総合目標に掲げ、都民の健康づくりを推進しております。都民の健康状況を見ると、四十歳から七十四歳の都民の三人に一人は糖尿病または予備軍であり、生活習慣病の予防は健康づくりを進める上で最大の課題でございます。がん、糖尿病を初めとする生活習慣病の予防、重症化予防を推進するためには、日ごろの生活習慣の改善、特に食生活と運動に関する取り組みが重要でございます。

○田中委員 都民の三人に一人が糖尿病、また、そのためにはやっぱり食生活だということがありました。食の欧米化によって、今までの野菜から、肉や牛乳や乳製品などの動物性脂肪の多い食品が増加をしましてまいりました。これによって、先ほどの糖尿病も大きくふえることとなり、それによって肥満、また、動脈硬化によって起こる心疾患や糖尿病、乳がん、大腸がん、前立腺がんが急増しているともいわれております。そのためには、やはり早期発見や早期治療といわれておりますが、最も肝心なのは、病気になるための予防の観点であります。栄養のバランスや塩分、糖分のとり過ぎの注意等、もちろん生活習慣病の予防にはなりますが、今、学会や国会でも話題になっております動物性脂肪に関しては、都としてもまだまだ対策がおくれていると。昨年六月に、日本動脈硬化学会が、脂肪の中でも特に飽和脂肪酸が動脈硬化性疾患のリスクを高めるということを発表しました。この中のガイドラインでは、この予防をするために生活習慣病を改善するということで、肉の脂身や乳製品や卵白を抑えて、魚や大豆製品の摂取をふやすと。当然、日本人がこれまで食べてきた食生活ではあるんですが、これを提言しております。さらに、今年度は厚生労働省のホームページでも、脂質異常症を防ぐ食事として、飽和脂肪酸一に対して、いわゆる不飽和脂肪酸というのを倍以上とること、また、高コレステロールの人は、コレステロールを多く含む食品を控えるということを挙げております。また、食事は、先ほどの給食ではないんですけど、幼少から形成されるといわれておりますから、大人だけではなく、子供を持つ親御さんにもさまざまな啓発が必要かと思っておりますが、都としての考え、また、取り組みを伺います。

○高橋保健政策部長 日本におけます大規模な疫学研究におきましては、飽和脂肪酸の摂取量の増加と心筋梗塞等の動脈硬化性疾患の増加には、必ずしも関連が認められておりません。逆に、飽和脂肪酸摂取量の少ない場合に、脳出血の増加が見られております。これらのことも踏まえまして、厚生労働省では、科学的根拠に基づき、日本人のための食事摂取基準を定めておりまして、脂肪酸に限らず、さまざまな栄養素について望ましい摂取量を示すとともに、バランスのよい食事を推奨しております。

注) 「日本人の食事摂取基準」には「以上の結果から、飽和脂肪酸摂取量が多くて問題となる主要な疾患は冠動脈疾患、肥満、糖尿病である。」と記載されており、東京大学社会予防疫学佐々木敏教授をはじめ、策定に関わった先生方から高橋保健政策部長の認識は間違えであるとの指摘がありました。

また、高橋保健政策部長が示した日本における大規模な疫学調査「Dietary intake of saturated fatty acids and mortality from cardiovascular disease in Japanese: the Japan Collaborative Cohort Study for Evaluation of Cancer Risk (JACC) Study」は飽和脂肪酸の摂取量と心筋梗塞の死亡率に関する論文で発症率は論じられていません。初歩的な間違いです。しかも論文には「it would nevertheless be inappropriate to recommend an increased consumption of SFA-containing products to the general Japanese population, because it might increase population levels of total cholesterol and the risk of IHD」と記載され、飽和脂肪酸が心筋梗塞の原因であるとの常識に基づいて書かれています。

飽和脂肪酸の摂取が少ないと脳出血が増えると説明していますが、WHOや日本動脈硬化学会は、飽和脂肪酸は脳卒中のリスクであるとの見解です。脳卒中に関して最も権威のある医学雑誌「Stroke」に佐々木敏教授が、塩分摂取量で補正していないと、脳卒中のリスクであるとの結果がでないが、塩分摂取量で補正すると飽和脂肪酸は脳卒中のリスクであることがはっきりするとの論文を記載しています。

高橋保健政策部長は平成26年3月18日の厚生委員会でも、飽和脂肪酸は心筋梗塞の原因ではないとの見解を繰り返しました。